

2月4日（月）

青 い コ ー ト

聖書朗読 エペソ 2:1～10

罪から来る報酬は死です。しかし、神のくださる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。ローマ 6:23

冬が近づくにつれて、私たちの地域では、冬用のコートが必要な子どもたちが何人かいました。このことに気づいた教会では、様々な色、デザイン、サイズのコートを用意しました。

各学校では、カウンセラーがコートの必要な子どもたちを調べ、その子どもたちを教会に連れて来きました。ある小さな男の子が、青色のコートを指さして、着てみてもよいか尋ねました。ボランティアの人が男の子にコートを着せるのを手伝ってあげると、男の子は満面の笑みで「僕、これ大好き！ぴったりだし、青は僕の一番好きな色なんだ！」と言いました。

しかし、突然男の子はボランティアの人の方へ振り向き、言いました。「僕、このコートを買うお金を持っていないよ」。男の子の顔から笑みが消えてしまいました。そして、男の子はコートを元の場所に戻してしまいました。

ボランティアの人は男の子を抱きしめ、「これは君へのギフトなのよ。もうお金は支払われているの。だから君はお金を出さなくていいのよ」と言いました。そして、ボランティアの人はコートを男の子にかけてあげました。男の子は、お友達の外へ走り、コートのことを伝えていました。

時に、私たちもこの小さな男の子のようです。神様は私たちにその時に必要な物を無償でお与えくださいます。私たちの罪は、イエス様の十字架によって支払われています。私たちは、自分への贖いの代価を稼ぐことも、支払うこともできません。しかし、私たちは応えることができます。さあ、神様の素晴らしいギフトを知って、それをみんなに伝えましょう！

聖歌 229

祈り 親愛なるお父様。素晴らしい贖いのギフトをお与えくださり心より感謝いたします。あなた様の恵みと憐れみの良い知らせを皆と分かち合うことによって、あなた様にお応えすることができますように。良い知らせを聞いた彼らもまたあなた様に近づくことができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

サリー・L・シャンク

ウエストバージニア州 ヴィエナ

今日の力

2013年2月4日～2月10日

翻訳 阿部やよい

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月5日(火)

口を開く前に

聖書朗読 エペソ 4:17～32

ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は思慮がある。箴言 10:19

マーク・トウェーンが言った言葉に「口を開き全ての疑いを取り除いてやるよりは、口を閉じて愚か者と思われた方がましだ」というのがあります。これは、『愚か者でも、黙っていれば、知恵のある者と思われ、そのくちびるを閉じていけば、悟りのある者と思われる。』（箴言17:28）と言ったイスラエルの賢人の知恵を現代版に言いかえたものと言えます。

口を閉じていることに苦労しているのは私だけではないと思います。いったん口から出てしまった言葉で、もし口の中に戻せるものなら戻したい言葉がたくさんあります。でも、一度出た言葉は二度と口には戻せません。皆さんもそうでしょう？

聖書では前向き、または否定的な言葉の使い方について多く語られています。私のようなおしゃべりの者にとっては、「沈黙すること」が一番よいのかもしれませんが、もう一つ方法があります。それは、口から言葉を放つ前にまず考え、相手にとって役立つ言葉のみをあなたの口から発することです。どうか神様、人を傷つけたり、けなしたりするよりも、人を癒し、道徳心を養うための言葉を使える人になれますようお助けください。

言葉も限りあるものだったら、
人はもっと考えて話すだろう。
——— ジェイクスピア

讃美歌 453

祈り お父様。今日一日、私の口から悪い言葉が一切でることなく、あなた様の恵みが必要な人々を強くするために役立つ言葉だけを口から出すことができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。」

アンディ・ウォール

カリフォルニア州 オークパーク

2月6日(水)

噂話！

聖書朗読 エペソ 4:29～32

私の口のことばと、私の心の思いとが、御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。詩篇 19:14

「仕入れたての噂、聞きたくありませんか？ 教えてもいいけど、誰にも言わないでくださいね」。悪い噂が広まるときの会話の始まりは大体がこんな感じです。テレビでも、新聞でも、会社でも、ご近所でも、そして教会でさえも、人を中傷するような会話がいたるところから聞こえてきます。私たちは、そこに悪魔の仕業をはっきり見ることができません。

聖書では、ゴシップや噂を広める人々に対して厳しい言葉で語られています。人を傷つける言葉は友人、家族、ご近所さん、同僚との関係を確実に悪くします。

どうして私たちは人のことを批判めいて言ってしまうのでしょうか？ それは、他人と噂を共有することで何かを得られると思っているからかもしれません。または、人の欠点を知ること、自身の自尊心を築きあげているからかもしれません。時に私たちは周りの人に嫉妬します。そして、その人をこき下ろさないと我慢できないときがあります。どんな理由であれ、それは罪深いことであると聖書は言っています。

イエス様は信者たちに、そうはならないよう、世の光となるよう望まれました。もしあなたが、人のことを悪く言う癖があるのなら、この良くない癖に打ち勝つために、神様の強さにすがりましょう。

讃美歌 267

祈り お父様。他人を批判し、裁く癖をなくそうと頑張っているとき、どうぞ私に強さをお与えください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジェーン・ポー・マシー

テキサス州 ヒューストン

2月7日(木)

追 求 す る の で す ！

聖書朗読 ピリピ 3:12~4:1

私は、すでに得たものではなく、すでに完全にされているものでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。 ピリピ 3:12

主のみこころに適うためには神の助けが必要であることをパウロは知っていました。またパウロは正しく生きること専念しなければならないことも知っていました。彼は、自分が成し遂げてきたことに決して満足することはなく、常に前を目指しました。「私は完璧にこなし、あとは裁きの日までゆっくり待てよう」と椅子に深く座って言う人は誰もいないでしょう。パウロは、最終目標である完全なものとなるために常に追い求めなければいけないことを知っていました。4世紀の聖職者ニュッサのグレゴリオスの言葉で「完全な者になるとは、恵みの中で常に成長し続けることなのかもしれない」というのがあります。

パウロの言う「追求する」とは、恵みの中で成長するために、できることは全てであるということなのだと思います。パウロは救いを得るためだけに追い求めていたのではなく、むしろ、イエス様を愛していたので、やること全てをイエス様に喜んでいただきたいと思ってのことでした。パウロは彼の行いと教えで神の御名をあがめたかったのです。

パウロの最終ゴールは御国でした。パウロは私たちに彼を見習うことを望みました。そうすることで私たち全てもまた御国に行くことができるようパウロは望んだのです。そして、最後の日まで私たちが信仰深くあるのなら、イエス様は私たちに御国でのからだをお与えくださいます。

讃美歌 333

祈 り 親愛なる御国のお父様。あなた様とともに御国で永遠のときをすごせますよう、よりいっそう追求できますように。いつも私のそばにいて、助けてくださいますようお願い申し上げます。

イエス様の御名によって。アーメン。

ナンシー・ファーガソン
テキサス州 アビリン

2月8日(金)

清 く , 傷 の な い も の

聖書朗読 コロサイ 1:1~23

今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。 コロサイ 1:22

世界中の全ての人が清く傷のないものとして生きていけたら素晴らしいことだと思いませんか？ それは全ての人々が正しい行いをするを決心したときだけ実現できます。あなたも、あなたのできることから始めましょう！ 主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれる生活を皆が始められたら、なんと素晴らしいことでしょう。

残念なことに、この世ではこのようにはできないのが現実です。しかし、私たちは御国を目指しましょう。バプテスマを受けてキリストにつく者とされた全ての人は神の子です(ガラテヤ 3:26~27)。裁きの日、神様がお会いになるのは、完全なるイエス様の後ろに身を隠している罪人ではなく、聖く、傷のない者だけです。神様の恵みに感謝することはなんと素敵なことでしょう！ 神様の恵みとあわれみにより、イエス様によって私たちは御国に入らせていただけるのです。そのために、まず始めに私たちはイエス様につき、そしてイエス様のうちに留まる生活をしなければなりません。

讃美歌 529

祈 り 親愛なる御国のお父様。私たちに与えられたあなた様の恵みとあわれみを賛美いたします。そして、日々イエス様のうちにとどまっていられませう、永遠にあなた様とともに生きていくことができますようお祈りいたします。

あなた様の聖なる御子の御名によって。アーメン。

ナンシー・ファーガソン
テキサス州 アビリン

2月9日（土）

何　　で　　も

聖書朗読　コロサイ　3：1～17

あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。　　コロサイ　3：17

どの仕事に就くべきか？ 子どもをどの学校に行かせるべきか？ どこの教会に行くべきか？ いつ退職するべきか？

私たちの生活の中では、決断することに本当に多くの時間をさきます。大きな決断の時もあれば、チキンかビーフかみたいな些細な決断のときもあります。どれにするか、誰にするか、いつにするか、どこにするか、絶え間なく押し寄せる決断は、私たちから多くのエネルギーを吸い取ります。その後の人生を決定するような大きな決断に迫られたとき、私たちは良き決断をしなればという思いが強すぎて自分のこと以外考えられなくなります。そんな時は、静かに考えて神様に思いを寄せてみませんか。

ある夜、妻と私は、娘が習っているバレエを続けるかどうか娘と話していました。その時、私たちはこの有名な聖句を思い出し、何かを決断するときが一番大切なのは、神様の栄光を現すことを念頭に置くことだと気づきました。これにより、娘は「正しい決断」をしなればいけないという呪縛から解放され、ただ神様の栄光を現す行いをすればよいと分かって、心から安心することができました。

「決断をしなれば」この思いに囚われている間は、私たちは真の自由を感じることはできないでしょう。神様の栄光を現すことを最優先に考えていけば、おのずと行くべき道は決まっていきます。その道はいたるところで見えてくるでしょう。

聖　歌　725

祈　り　　主よ。日々の生活で、私たちの行いの全てにおいて、あなた様をほめたたえることができますように。

ジェフ・キャリ
テキサス州　ラボック

2月10日（日）

王　に　ふ　さ　わ　し　い　服

聖書朗読　コロサイ　3：12～14

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。　　I ペテロ　2：9

王族の方が私たちの目の前に来られたとき、私たちはどうやって彼らが王族だと見分けるのでしょうか？ 王族とその他の人たちと大きく違う点の一つは、その衣装です。極上の布、金襴、ゆったり垂れ下がったローブを身に着けています。それは王様や王女様にふさわしい装いです。そして仕上げは、光に反射して輝く王冠に埋め込まれた宝石達です。この美しさの前に、私たちは疑うことなく、目の前にいる御方は王族の方だと知なのです。

私たちは選ばれた種族、王である祭司です（I ペテロ 2：9）。私たちと、その他の人たちとを見分ける方法の一つは、身につけているものです。国王の息子、娘として、私たちは思いやり、親切、謙虚、優しさ、忍耐、自制、そして許しの心という衣を身にまとわなければなりません。そして、仕上げに愛という光輝く王冠をかぶります。『もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。』（ヨハネ 13：35）

ですから、今朝、一日の準備をするとき、私たちは誰に属しているのか、王に適した服を正しく身につけているかを思い出してください。

讃美歌　第二編　45

祈　り　　親愛なる主であり王であるお方。あなた様の王族の一員であることを決して忘れないようにさせてください。イエス様の御名によって世の中に出て行くとき、私達が身にまとうべき服（立ち振る舞いと種族）を間違うことなく選ぶことができますようお助けください。

イエス様を通してお祈りいたします。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州　グランバリー